

西多摩医師会報

第52号 昭和52年 1月



早春の図 川合玉堂

目次

人口の動向と人口抑制の動き……馬島季磨……	2
新年の挨拶……高水武夫……	3
新中国23日間見て歩き(第4回) 加藤 出……	4
新春隨筆特集	
温故知新……進藤利定……	6
ふと思うこと……深山秀憲……	7
野口博士の生家を訪ねて……吉植庄平……	8
履歴のような作文……市原 靖……	9
奇術部特訓旅行……池田 聖……	10

小児科外来にみられる母親様々……道又正達……	11
不思議な話 ……甲斐武比吉……	12
通勤 ……松山大秀……	13
野口英世先生の知られざる逸話 江口二三男……	13
川合玉堂先生のことども……大河原 周……	14
理事会報告(速水)……	15
第6回学術部研究会 ……	15
囲碁部特報(甲斐・大蔵)……	16
医師会日誌 ……	17

人口の動向と人口抑制の動き

— 日本に人口政策はあるか —

公立阿伎留病院長 馬 島 季 磨

1) 人口の動向

日本の人口は'20年に5,569万人、55年後の'75年には2倍の11,193万で、世界第6位であった。

50年後の2025年には13,949万人となり、略々1億4千万人で静止人口に達するといわれている。

世界の人口は、'50年25億、'74年39億であったが、'90年52億、2000年には62億に達する見込である。戦後世界人口の爆発的増加は、発展途上国が、医療や保健衛生水準の向上によって、多産多死から多産少死になったためである。

日本の人口密度は1平方料当たり297人で、バングラディッシュ(521人)、韓国(340人)、オランダ・ベルギーについて第5位である。しかし日本は山地が多く、平地面積に直せば1平方料当たり実に1,066人という世界最高の超過密国であるといえる。日本は戦後短期間で人口革命に成功した国として評価されているが、それでも実質人口密度は世界第1位、静止人口1億4千万人という気の遠くなるような人口に達することになる。

地球の定員は、資源消費の最も多い米国なみの生活を保つためには15億、同じく西欧なみなら23億、日本なみなら42億(略々現在の日本の生活が標準的といえる)、東南アジアなみなら68億、インドなみの生活を全世界人がするなら70億までは収容できると推察されている。2000年の世界の人口は62億となるので、その頃には現在の東南アジアよりほんのちょっぴりましな程度の生活しかできないということになる。

2) 人口増加抑制の動き

サンガー女史は、昭和2年来日、日本の適正人口は5千万人までではないか、それ以上の人口では環境破壊が大きく、食糧自給率は大きく低下すると警告した。

人口増加ゼロ運動；エーリック教授(スタンフォード大学)は、昭和48年、家族計画連盟西太平洋地域理事会で、米国に提言した如く、日本にも「人口ゼロ運動」を提言した。食糧の大半を輸入に頼っている日本は、おそらく20年以内に大規模な食

糧飢餓に襲われるであろう。食糧飢餓を先に延ばすためには、人口増加をゼロに抑えるべきであると警告した。

世界人口会議；国連は発展途上国の人口爆発と先進国の資源消費急増を抑制するため、人口問題を地球的規模で検討する必要に迫られるに至った。そこで'74年を「世界人口年」と決め、世界人口会議をブカレストで開催した。しかしいわゆる南北の意見は必ずしも一致せず、「各国が人口問題に対する関心を高め、相互の理解と協力を促進するように努めること」を呼びかけたにすぎなかった。

日本人口会議；昭和49年第1回会議で、人口庁の設置、ビルやIUDの公認、新しい避妊法の研究推進、アジアをはじめとする開発途上国への援助等に関して、政府の積極的行動を促す大会宣言を採択した。第2回会議(昭和50年)でも大会宣言を採択した。その内容は、政府は人口問題の重要性への認識を欠いている。例えば、人口政策は存在しない許りか、ビルや新しい避妊法の積極的検討すら怠っている。逆に人口増強策ともみえる政策(第3子から給付している児童手当)が行われている。政府はこれらの姿勢を早急に訂正するとともに、「子供は2人まで」に国民的コンセンサスを得よう努力すべきであると警告した。

国際人口問題議員懇談会；昭和50年の審議会で「人口政策に関する決議」を発表した。その中で「単に将来人口を自然の動向にゆだねるのではなく、できるだけ早期に、かつ低い水準で人口の安定化を図る必要がある」と述べているが、これはきわめて当を得た決議であった。

アジアにおける人口抑制の動き；各国とも国をあげて真剣に努力している。いささか強引と思える政策もある。例えば、シンガポールでは、子供は2人が正常、3人は贅沢、4人は反社会的であるというキャンペーンを展開、中国は結婚年令の引き上げ、インドは'76年から、公務員は子供は多くとも3人まで、4人目からは出産休暇をはじめ各種の公務員恩典を全て取り消すと宣告した。

3) 日本には人口政策は存在しない

日本の人口革命成功の中心的役割を果たしたものは、いうまでもなく優生保護法であるが、本法は議員立法(参議院議員谷口博士)で、政府提案ではない。政府が重い腰をあげて、昭和50年にやっと公認した避妊リングは、40年も前に太田博士が考案し、戦後広く普及していたものである。現在数十万人が服用しているピルも未だ政府の結論は出ていない。このように今までの人口抑制は専ら民間主導型で、人口革命の成功は全く国民の英知によるものである。

前述のように各種の人口会議が、政府に対して警告し提言したにもかかわらず、政府は未だに明確な人口政策を示していない。日本には真の人口

政策は存在しないのである。

4) 筆者の提言

筆者は産婦人科医として、毎日生まれ出てくるベビーを見る時、この子が将来1億4千万の人間の中で、如何にして生き抜くであろうかと考えると、心からお目出度いという気にはなれない。

静止人口1億4千万人を、少しでも低いレベルにし、出来れば1億2~3千万人台にしたいものである。このためには、「子供は2人まで」というキャンペーンを強力に展開し、家族計画を更に積極的に推進する必要がある。人口増加ゼロ運動を今直ぐ開始しても、人口増加は当分続くので、事は急を要する。

年頭にあたり 御挨拶申し上げます

会長 高 水 武 夫

会員の皆様 明けましてお目出とう御座居ます。

私が第二期めの信任を得ましてから、早いもので、もう新年をむかえることになりました。

かえり見ますと、昨年は医師会館拡充の一助として、隣接敷地の買収を終え、念願であった駐車場としての整備も完了し、又その関連医師会事業としての6ヶ月・9ヶ月乳児検診も会員大多数の皆様の御協力により極めて順調に運営されている事は大きな喜びであり、深く感謝するところであります。

又、地区医師会の本命である地域医療対策につきましては、各自自治体・保健所或は消防署等々の協体制も年々その密度を増し、有機的組織活動の基礎を着々と積み重ねつつあります。

殊に、予防衛生活動に関しては、各関係自治体から積極的な後援を賜り、その責務の重大さを一層痛感している次第であります。

さて、世はロッキード問題で騒然たる中に総選挙を経、新年をむかえたのでありますが、その結果は、皆様御承知の如くであります。此の厳然たる事実のまえて、私は今後特に租税特別措置法廃止と、世論が徐々に医業国营化の方向に傾くのではないかと云う事を深く憂慮するものであります。之等は全力を尽して阻止しなければならぬと考えます。

此の複雑化する内外の諸情勢に即応するため、昨年より諮問委員会の母体となるべき、各研究委員会を常設し、本年も種々検討をすすめていく考えであります。本年はその社会情勢からも、会の尚一層の一致団結が要望されるところでありますので、その基礎たる「和」の問題について改めて考えつつ会の運営に最善の努力をはらってゆきたいと考えております。

会員の皆様のお協力をお願いし新年の御挨拶にかえます。

新中国 23 日間見て歩き (第 4 回)

東青梅病院 加 藤 出

S.51.5.25 夕方早目に食事をすませ、20時より中日友好協会理事の金黎氏、王雲氏と通訳のいつもの2名(黄幸・廓運泉氏)と膝を交えての座談会が行われた。金黎氏の話のうち印象あるものを挙げると覇権問題では対米よりも対ソの方が大事ではないか、北方領土、漁船、漁民拿捕、大型爆撃機による東京急行等々。又新聞に書かれない色々の勝手な振舞が多いのではないか。

覇権問題はもともとキッシンジャーが提案したもので、田中・周共同声明で記録されているが、その後三木になってからおかしくなった。これが日中条約に入らなければ意味がない。安保問題では中国は賛成しないがソ連の核の脅威に対して安保の必要性は理解出来る。ソ連修正主義は共産主義ではなく、社会帝国主義である。

中国は解放後27年で大分良くなった。朝鮮戦争によるソ連借款は1958年から1966年の間17億ドルを返済した。東欧諸国に対するソ連の仕打ちはひどく、経済的・軍事的力を以て資本主義よりもひどい強制的な貿易政策により、中間搾取をし、ぬくぬくと儲けている。フルシチョフは中国に対して技術者や機械の急激な引き揚げ(1960年)、借款に対する苛酷な返済条件、ソ連国境事件のことなど仲々強い調子で話が進められた。

中国では所々に毛主席万才のスローガンと共にマルクス・レーニン・スターリンと毛主席の4名の写真が出ているが、スターリン時代までは中ソが仲良かったので未だに写真を出し、フルシチョフ以降のソ連を目の仇としているようであった。

さてこの夜は23:30北京駅発の寝台車に乗り農業の模範的人民公社・生産大隊である山西省大寨を見学すべく出発した。鉄道の北京駅は大分前の上野駅の様で、照明の暗い、薄汚れた感じであったが、浮浪者みたいな人間は見当たらず、荷物を持って時間を待っている人が少なからず見られた。吾々は特別待合室で少憩の後、ホームへ案内され、軟車という寝台車に入った。これは4名1室のコンパートメントで、上下2段のベッドがあり、日本のものとさして変わらないが、お茶の接待は充

分あった。

ただ驚いたことは、ホームで待っていると、発車寸前に乗用車をホームの軟車の直前まで横付けにして乗り込んだ政府高官らしい人がいた。やはり共産国にも特権階級の人はあるものと思った次第だが、翌朝の食堂車への案内はその人よりも吾々の団体のほうが早く、吾々だけで先ず食事して、それから他の人達を入れていたので、高官や、制服を着た高級軍人も後廻しとなり、少しおかしいなという顔付をしていた。眼鏡をかけ、カメラを持ち背広を着た日本人がこんな旅行をすることは、滅多にないから無理もないことだろう。

5月26日早朝、山西省陽泉駅着、懐かしい蒸気機関車の音をあとにして下車、貴賓室にてお茶を一杯、上海号乗用車4台にて約60分、駅より45軒の地点の山西省昔陽県の人民公社大寨大隊に到着した。

ここは中国における農業の模範的農場で、現在副首相になっている陳永貴氏が、不撓不屈の精神力と農民労働者一致協力しての努力によって、不毛に近い様な山間の荒地を耕し、谷を埋め、堰を造って耕地を作り、200軒のかなたのダムから水路・トンネル・橋を造って水を引き、集中豪雨に対する水はけ用の下水路なども作り、全くの荒地を広い耕地に変えた農場の大隊で、この功績により指導者の陳氏が人民公社の第一書記となり、県の第一書記となり、遂は農業担当の副首相となった所で、1965年から「農業は大寨に学べ」のスローガンにより全国の賞賛的となっているため、見学者が連日の如く集まっている。

しかし見たところ全く乾燥した赤土で日本ならば全く顧みられない様なやせ地に、山の頂上まで見渡す限り、樹木というものは全くという程なく、僅かなところどころに灌木があるだけで、そこを切り開いて、谷を埋め、広い農場に変えた努力と根気には驚く外はなかった。

段々畑の石垣積みにしても数年前迄は一直線だった為、少しの雨で崩れてしまい、何回か崩れて漸く橋からヒントを得て曲線にしたという。日本

でなら考えられない様な試行錯誤があるらしく、教育の低さと、技術の交流の乏しさの為であろうとの考えを私は持ったが、中国人の粘り強さにも敬服する思いであった。

午前中は大寨展覧館見学、これはどこへ行ってもその土地の歴史・産業を展示し、小国民の教育、外来者への展覧啓蒙に資している様であった。ここで特に私が印象深かったのは党员幹部の守るべき原則が示されていたが、それによると——

幹部守則 三条守則 1.私せず 2.特殊とせず 3.全体の生産労働に参加する。两条規定 1.会議は昼間は開かず 2.労働報酬は同等の労働能力の社員より多くせず。—— ということ、幹部と雖も特別扱いしたり、私物化したり、労働には一般と同じ様に参加し、会議は夜間に開き、給料も幹部だからと言って多くとはいけないという。誠に清潔な、ロッキードでゆれる吾が国の政治家諸公に聞かせ、実行させたい原則であった。

午後は大寨の農場と共同住宅である大寨新村を見学した。大寨は山西省にあり、冬は極めて寒い土地の上、降雨量も少ないので高い、太い木もなく赤白い土にて、凡そ肥沃な所とは思えず、そこを大衆動員で耕作した努力は敬服するが、寒い冬に暖房はどうするのかと思って尋ねたら、近くに石炭が出る所があり、価格は忘れたが極めて安いようで、品質は非常によいらしく、見たところ黒光りのした無煙炭かも知れないような石炭であった。

土地は瘦地でも思わぬところに日本にはない地下資源があるので羨しい思いであった。因に当地は冬は零下30℃、夏は35℃に達するそうで、標高は1006米である由、寒いばかりでなく夏の暑さもすぎまじらしい。建設途中の昔の住居は穴ぐら生活で、原始的なものだと思ったら、現在建設中の新村も、すべて奥半分は土中に埋まっている。その方が夏冬共に温度変化が少なく、合理的なのであろう。

大寨新村の住宅は、大隊の全人口83戸、450名〔労働人口160名、846⁴畝(1畝は300坪位か)を耕作〕が入る2階建のコンクリート造りで一階は居室、10畳位のスペースの土間の中に、4畳程の広さのオンドル付のベッド位の高さの所があり、そこがベッドにもなり、くつろぐところにもなる部分であった。奥には各戸共必ず大きな甕が数ヶあり、食糧を貯蔵するに用うるらしい。

その部屋の前は農作業にも使える広場があり、その反対側に前の棟の2階があり、(崖の淵に作ってあるので段々になっている。)そこが台所となっているので、部屋と離れており冬などは大変だろうと思えた。この1対で1軒となり、1年の借料が5元と台所3元(800円と480円)とのことであった。一家の構成人員によって2部屋使うことも出来るらしい。1965年までは電気もなく、75年になって漸く農場に自動車道が出来たので、荷物・作物の運搬に用いられていたケーブルは5本あったが、今は2本だけ残っている。新村の入口に近い所に党委員会・集会場と共に売店があり、入って見たが、農器具・食料・衣料・文具などがあり、新村で生活するには決して豊かではないが一応足りるのであろう。又、この大隊には副首相夫人がいるが、今も保育園の先生をしている由、副首相になっても夫人ともども決して労働を忘れない、一般の農民と差をつけたいという点では大したものだという感じがする。自由社会では考えられないことだった。この様な大隊が20ヶ集って大寨人民公社を作っているという。

昔はそれこそ作物の全くという程とれなかった瘦地をこれだけ開墾し、しかも上に立つ者の清潔さと使命感と指導性によって農業を振興させれば、中国政府・党の考える自給自足は勿論、ゆくゆくは作物に余剰を生じ、膨大な量の輸出を可能にするだろうと思われ、日本も遠い処から購入しなくとも近くで足りるであろうけれど、その時にイデオロギーの違いがどう作用するか、そのへんのことは素人には全くわからない。

夜はいかにも毎日農作業をしているという感じの日焼けした革命委员会主任の歓迎宴あり、薄暗い電灯の下で、荒げずりの、土くさい料理と、強い酒のもてなしがあり、その後大寨農場の発展を示す映画が約2時間に互に見せられ、開墾の苦勞がしのばれた。

翌早朝大寨をたち、車にて陽泉駅へ向かったが、途中ボーキサイド工場が2ヶ所程あり、地下資源の豊富さがしのばれた。09:55陽泉駅発北京に向かった。沿線は初めは山中を走り、後半は広い平野を突っ走ったが、吾が国に比べればとにかく広いこと、木や緑の少ないこと、人口密度の少ないことが印象的だった。石家庄などの昔のなじみのある駅を通過して16:33北京に帰着した。(つづく)

新春随筆特集

温 故 知 新

進 藤 利 定

私共は長い医師生活の中で、誰しもが思いもよらず、感謝されたり怨まれたりと云う数々の経験を持っておられる事と思う。ところで、感謝されると云っても様々な場合があらうかと思うが、最も普通のケースは、比較的重い患者を最初から最後まで自分が誠意を尽して診療し、幸いに治癒した時に受ける感謝で、之は医師たる以上誰しもが常に経験されている事であるが、時には他の医師が診療中の病名未定の患者で、たまたま自分の診療中、診断が確定し治癒すると云う症例も経験しておられるのではあるまいか。戦前は急性肺炎の診断で、屢々甲(初診医)の医師は藪医者となり、乙(後医)は名医として感謝され、ひいては之が医師相互の交友親善に大きな輝裂をもたらしたものである。と云う事は、戦前は西多摩地区では三日医師の診療を受け熱が降らなければ医者を取り換えよと云う事が巷間に伝えられていたので、肺炎の如き高熱患者は屢々医師を転々として移り歩いたものである。そうすると、熱だけが唯一の症状である時期に診療した初診医は、診断も確定せず治療効果もあがらないので藪医者として怨まれ、症状の出揃った解熱期に診察した第二、第三の医師は診断もピタリ確定し熱もグイグイ降るので期せずして名医となり、大いに感謝されたものである。然しこの場合、後医の説明の如何に依っては前医は怨まれなくてもよいのであるが、戦前は、急性熱性病患者、特に急性肺炎の診断で医師間に種々なトラブルが起きたものである。この事は医師倫理の上からも、誠に恥ずべき事であったと思う。然し私の経験したのは之とは一寸変わった一例で、昭和の初め小樽市の病院に在職中経験した一症例である。患者は顔色青ざめた見るからに神経質な弱々しい御婦人で、病歴に依ると、主訴は左側胸部より背部に互る疼痛、食欲不振・盗汗で然も小樽市の名医と称せられる多くの先生方(開業医師)の診療を受け、肋膜炎と診断されている

患者である。確かにインスペクションに於ては、T.Bを疑わしむるに充分な顔貌であった。然し自分は当時はまだ多少研究意慾もある青年医師であったので、一応型の如く胸背部・腹部・四肢と全部を打聴診・触診を行った。ところが意外にも胸背部には特に肋膜炎の症状も発見されず、腹部(剣尖突起と臍部の中間部)約そ3cm円柱状無痛性異物を触知した。自分はその時、この異物は針ではなかろうかと直感したので、種々と問診したが、患者は全然針を刺した覚えはないと云う。猶又異物の存在部位と疼痛を訴える場所が大分かけ離れてはいるし、腹部の異物と胸背部の疼痛と神経学的に如何なる関連性があるかは解らないが、胸背部に肋膜炎の確定した所見がない以上、名医の先生方の所覬肋膜炎の犯罪者は、この異物ではなかろうかと考えたので、兎も角も異物の摘出を極力奨めたところ、幸いに承諾して呉れたので、即日摘出術を行ったところ案に違わず、異物は皮下結締組織に纏絡された長さ2.7cmの陳旧性の折れた縫針であった。恐らく幼児身体の何れかの部位に刺入した針が、患者の現在の年令から推定して少なくとも卅年間体内巡りをして最終の安定場所として腹部に宿っていたのであろうと思う。自分は嘗て針の体内旅行という記事を医学雑誌で読んだ事があるが自らが経験したのは之が初めてである。

この患者はその後胸背部の疼痛全く去り、食慾も平常に復し、生き生きとした顔貌で後日御礼に來られ、神様の様に崇められ喜んで頂いた事は、今も猶忘れる事は出来ない。然し、この症例を静かに考えてみると何も鬼の首をとった様な功績でもなし、医師として当然の診療をした迄の事であるが、日常繁忙な開業医師には幾つかの重要な示唆を与えていると思う。

私共開業医師は戦前に屢々経験した事ではあるが夜間診療等に依り疲労困憊すると、単なる問診とインスペクション、そして簡単な診察だけで病

名を決定したり、又は前医の診断に追従して適正な診察を怠る事があった。私なども今の症例とは反対に、肋膜炎を単なる感冒と診断し、子供のジフテリアを之又感冒と誤り怨まれた事もあるが、恐らく先輩同僚各位にも多くの苦い経験を持っておられる事と思う。

私は医師生活55年の長い経験から、人の生命を預かる医師たる者は如何なる場合でも注意力の著しく散漫になった状態では新患は診察すべきではない。又既に他の医師が診察しておられる患者を診る場合、徒に前医の診断に追従すべきではない。殊に前医が信頼すべき医師であっても一応自主的に正規の診断課程を経て同意又は自主的な診断を下すべきであると思う。

ふ と 思 う こ と

深 山 秀 憲

わたわたとしているうちに時計の針がすすみ、なんとなく新しい年を迎えてしまったが、今年は参院における保革逆転なるか、という重大な年であることが新春の厳かな気分とともに、ふと思ひ出される。さきに発表された共産党の医療制度の構想や旧年の解散選挙中に次々と打ち出された社会党その他の政党的政策要綱を見聞きしてみると、それらが眼前の問題となっていることの為の対策だけであって、医療専門家や実際に医療に携わっている人々の意見が全く加味されていないものであることが明白である。仮にこれらの要綱を選挙用公約として差し引きして考えてみたとしても、結局底に残っている思想は医療国営・個人開業の制限であって、医師を始め医療関係者を必要に応じ我々が育成するという政党まで存在するに至っては、全くあきれて物も言えないというのが正直な実感である。しかし、若し彼等が過半数を占める時代がやって来たならば否応なしにそのような体制に組み込まれるわけであり、それを思うと現在、後継者育成のために学問の尊厳に対し敬意を表し、莫大な浄財を献じて我が子を医師にしてみたところでその行きつく先が、不平のこり固りである官公労の一員として生活給で一杯だ、という有様では、余りにも哀れと言わざるを得ない。

一方又、我々会員が政治意識を高めてなんとか

前述の小樽に於ける症例は、初診医が名医であっただけに第二、第三の医師は恐らく簡単な診察で初診医の診断に同意された為に起きた誤りであると思う。

以上申し述べた事は孰れも戦前の古い経験ではあるが、すべて世の中の進歩発展は、古いものの積み重ねに依って、より善き新しいものが創造されて行くのではなからうか。現在問題になっている夜間救急診療などもこうした過去の経験を基盤として、無理のない適正な制度が創られなければならないと思う。

古きを温ねて新しきを知る、誠に翫味すべき言葉であると思う。諸先生方の種々と貴重な御経験をお聞かせ頂ければ幸いと思う。

それだけは食い止めたとしても、果たして現行税制ではそっくりそのまま医療機関を相続出来るであろうか？ 毎年ジリジリ上がる地価評価と、比較的地価の高いところに集中する傾向にある医療機関の相続評価からはじき出された相続税を納めるのに3分の1、いや3分の2までも物納しなければ、それを相続出来ない場合も出てくる恐れがあるのである。すでに農民に対しては、20年農業を継続すれば相続税を納めなくてもよいという農地相続特例があり、又幼稚園経営者に対する特例も出来ている。これはこれ等の団体が強力な圧力を政治家にかけたからであり、我々医師会も代弁者を政界に送り込み、ぜひとも公共性の名の元に低額な報酬で奉仕して来た医業を安泰に継承して行けるよう立法して貰わねばならないと思う。つまり我々の努力を正しく評価してくれるであろうと、ただ単に手をこまねいていたのではいつ迄たっても立法化は実現しないのである。大蔵官僚の言う「必要性は理解できるが、世論が伴っていない」と一蹴されてしまうのが落ちである。日医は医療の国家百年の大計を論じていて結構、地域の我々は強力に今様の政治体制に心ならずも便乗して子孫の為に努力しなければならないと思う。

3年前の参院選挙運動の際に、会員相互が従前からの医師会活動の範囲内で知り得た人柄の他に

新たな側面を見出し親近の感を一層深めた事は有意義な事であった。

今、1977年という新しい年を迎え、半年後に迫

る参院選には前回よりも多くの会員が集まり、色々な意見が交換される事を楽しみに心待ちしている次第である。

野口博士の生家を訪ねて

吉 植 庄 平

この秋は、病院の人達と東北地方に一泊旅行をした。これには一つの長年の宿願であった野口博士の生家を拜見する楽しみがあったのである。

路傍には初雪積りたり姫小松ならびみゆる
ところ野口記念館に近づくも

磐梯の山の谷合に雪すじのいくつかみえて
まさに雄大なり

この年は生誕百年なり磐梯の雄大さが先生
を生みしかそれだけにあらずも

三才の清作が「いじこ」よりぬけ出して罌
炉裏ばたより灰かきまわしたり

うつぶしぬ灰かぐらの中の清作を狂乱の母
シカさんは抱きあげぬ

そのまゝの罌炉裏に向うも天井より太き木
ばかり一本下りて

土間に立ち庭に紅葉のみゆるなり昔の面影
しばし偲ばんとす

やけど
火傷して左手の変形は一生の発奮をつくり
しと父きゝたりという

精魂を尽し、寝食を忘れて、つくった標本を何回もみなおしたが、スピロヘータは見当たらず、失望の連続の中に、もう一回とがんばってとうとう発見したときいている。私の父が一夜先生からこの話を直接うかがい、子供の頃からしばしば聞かされていたので、ガラスの中の標本を見る私の感動はとめようもなかった。今こゝにきている人々がこの標本の意義をどこまでわかるであろうか。

繰返し調べて空しき日の立ちぬ執念はついにスピロヘータ見出したり

病原体さがし当てしが生涯と思えば人生の花のごとく短し

モルモットと人の臓器のレプトスピラならびし写真凝視するも吾は

失恋と左手の火傷は発奮をいたさせしと先生は語りしある夜話に

軍刀はデンマークの少女とのロマンスがありてその父の賜物(おくりもの)とあり

後年に一つは学問なり他の一つ「ラブ」(love)とどちらが尊きかと問いし

先生と夫人メリーの写真なり 1912年結婚すと記されぬ

たくましく燃えちぎるまでの情熱よこの物静かなる面にひそみしかも

大人物生れて百年たちにけり初雪の旅に物思ふことあり

記念館^い出て雨なりいますぎし山々にふたゝび雪ふりているらしき

えらびたり「至誠」と「中庸」の色紙買い心ゆたかな旅帰り来ぬ

黄熱に昭和三年たおれたり五十一才の人生はずざましくして

世にのこす仕事をしたきと思いつゝこの年になりし偉大さをうやまう

海のごとく猪苗代湖のひろがりて雨けふる彼岸に山なみのかそけし

「至誠」の色紙をみながら、すこしでも医師として世の中の人の命をたすけるよう努力してみたとい、心を新たにして旅を終った次第である。

(昭和51年12月3日)

履 歴 の よ う な 作 文

市 原 靖

随筆を書くように云われ、今迄日記もつけたこともないので衝撃を感じたが、とつおいつ考えた末まよと心にうつりゆくよしなし事を書きつらねることにした。これこそまことにあやしきもの狂おしい限りではある。

卒業して陸上自衛隊に入り間もなく練馬部隊に配属されたが、訓練の激しい男ばかりの世界にも何とも云い知れぬペースが漂っていた。恋人に会いに行く友達の靴を磨いてやって「うまくやってこいよ」とみんなで肩を叩いて送り出している光景に出合ったり、病院係りの隊員が毎晩ズボンから上着果ては帽子に迄アイロンをかけているのを見たりすると感動するのである。冬の朝6時はまだ暗い。点呼の前のひときあどけない顔の新人隊員が涙ぐんでいるのでそっと聞いてみたら「こんなはまだ暗くて寒いんだもの」とお星さんを見つめた瞳に涙が光った。きとお母さんを思い出したんだろう。この光景も何故か忘れられない。

或晩部隊に泉熱様疾患の大流行が起こり、帰ろうとしていた医務室に高熱患者が続々と担送されてきた。遂にその夜から泊り込みになってしまったが流行が進むにつれて胆妄状態の患者、痙攣を伴う患者も増えてきてごった返した。重症を送っていた三宿の中央病院も満床になって了い、講堂を、隊舎を病室にして収容した。

早朝から深夜迄診療が続けられて2週間経った頃中病研究検査科から上級の医官2名が援助に到着した。そしてCM, AM, PC, Sulfa. の4つのグループに患者を分けて治療を開始した。それからの夜PC, Sulfa. の群の高熱患者が廻診する僕の手を握り「医官、効く薬を下さい」と交々訴える日が何日かあった。遂に意を決し、中病の医官と医務室で話し合ったが、AM次いでCMのみ有効とする僕と意見衝突し今にも格闘になりそうになった。そこに管区の衛生課長がかけつけて仲に分けて入ったが、ふと気がつくと後ろに医務室の仲間がずらっと並んで僕を護ってくれていた。これにも泣かされた。

練馬部隊のそばに国立埼玉病院があって、患者

について行ってはいろいろ教えてもらっていたが、慶応の病院なのでいつしか病院の一員のようになり、2年後国立埼玉に転勤した。聖明園の健康管理を考えて内科を掴んだが全く忙しかった。だからここに僕の青春があるようで、ぐでんぐでんに酔っぱらうと今でも埼玉の名前が奇妙に出て来る。

思い出もいっぱいあり、時代もまだ何となく大らかであった。あんまり看護学院の卒業生が残らないので医局に3年生を招待して御馳走し、大いに気を持たされるのだが結局は毎年スッポかされたり、医局会の終わりには毎度と云っていゝ程学院宿舎にストームをかけたりしたものである。内科に僕もよく面倒をみて頂いた鈴木先生という方がいらして大学に入局されることになったが、最後の日に下駄箱にバラの花が挿してあったのを見たことがある。これも長く印象に残っている。

埼玉に勤務して8年、僕の住んでいる聖明園が世田谷から青梅に移ったので一緒に引っ越し、幸運にも市立総合病院に奉職できた。先生方はじめ看護婦さん・病院のスタッフの方達も皆いゝ方達ばかりで愉しく仕事しているうちにいつしか十年以上経ち、この間に聖明園も50から150に、そして特老富士見園を加えて200人に増設された。

聖明園の平均年齢は77才、富士見園は88才である。お年寄りグループ活動を盛んにして小唄・謡曲・詩吟・御詠歌・川柳はては陶器作り等に励んでいる。不幸にも病気になり入院するようなことになると今迄の生活の絆が断たれてしまうためか、或は痴呆が急に進んだり、ひどいと胆妄状態になって了ったりする。そして一晩中大騒ぎして病院の皆様御迷惑をかけて了うことが多い。そのようなお年寄りが退院して部屋に戻り同室のお友達と一緒にになると不思議な程以前の落ち着きを取り戻す。お年寄り同士の人間関係は愕く程強いようである。

奇術部特訓旅行

池田 聖

「ようし、今晚泊ることに決めた!!」川崎健一郎先生が叫んだのであります。時は昭和51年11月27日(土)午後8時、所は山梨県石和温泉、ホテル八田でございます。奇術部の特訓旅行で、いわば奇術部の合宿訓練なのであります。

集まったメンバーは、香西盛長・速水完一・川崎健一郎・鹿野純一の各先生方と、元阿伎留病院の中村倫二郎先生、講師の青木伸夫氏と小生、合計7名の錚々たるメンバー。これに配しますは、石和のジングル、少しも可愛げのない中年のオバはん3名であります。

本当は川崎先生は泊られず、10時頃帰られる予定でございました。

「それで今晚泊るけど、どうしても明日ゴルフに行かなきゃならないんで、明日の朝4時に失礼する、そうきまったら大いに飲み、大いに歌おう!」川崎先生の御宣言に2、3人パチパチと拍手が起こりました。それを機会に宴は酣となったのであります。

川崎先生の美声は有名すぎる程で、双肌脱ぎとなって歌われましたし、女房役の中村先生が、海軍出身の速水先生を擁して、予科練の歌を謳うなど、小生も負けじと「陸軍予科士官学校の歌」などを怒鳴ったのでございます。それから昔のライブルの歌など続き、その間、中村先生や小生の手品も入りまして、英国紳士の香西先生も手拍子をされる程の大騒ぎとなりました。ジングルも啞然として為す所を知らず、「お姉さん達から逆に花代を貰わなけりゃね」と皮肉られるありさまでした。

× × ×

奇術部も発足してもう3年にもなるんであります。毎月欠かさず例会を開いていまして、この11月が32回目の例会でございました。部員の皆様も次第に高度のものをめざすようになりまして、日本古来からある有名な「お碗と玉」を習おうということになったのであります。幸いに昭島市在住の多摩奇術愛好の会々長青木伸夫氏がこの「お碗と玉」に関してはベテラン中のベテラン、手順の構成ではその右に出る者がいないという御仁でござ

います。その青木氏に頼みましたところ、丁度よいことに特別製の「お碗と玉」の用具を8組手に入れた。本当に覚えたいという人8人以下ならお教えしたいとのことでありました。何しろこの「お碗と玉」なる奇術は明和元年(西暦1764年)に平瀬輔世著「放下笠」に、品玉の術として詳述されている古い奇術でございます。

これは全部で6段の手順がありまして、3つのお碗の前に3個の布製の玉を置き、1個ずつ1つのお碗の中に玉を入れたのが、真中のお碗に3つ集まったり、左のお碗に移ったり、全部無くなったりして、最後にはマッチ箱とか或はミカン・レモン等になってしまうという奇術なのであります。

或奇術家がアメリカでこれを演じましたところ、アメリカの奇術愛好家が是非教えてもらいたいというので、教えましたら全部の手順を覚えるのに3日かかり、その3日間、食事や住居は勿論、昼間の観光料も負担してもらい、その上教授料まで貰ったという話があります。

従いましてこれを覚えるのには、1、2時間では到底駄目で、一泊して前の日に3時間、翌日1時間復習してやっと覚えれるものなのであります。石和での特訓がこの「お碗と玉」なのでございました。

講師の青木氏の車に鹿野先生と小生乗せていただきまして、午後2時頃福生を出発、4時半頃には会場に着きました。到着いたしますと、鹿野先生が早速浴衣に着がえられましたが、驚いたことに、お脱ぎになったワイシャツ・背広などは皆畳の上に脱ぎっぱなし。小生思わず「先生、洋服ダンスの中にしまっておいた方がいいですよ」と申しますと、たまたま部屋付きの女中さんが入って来ましたので、先生はその女中さんに「君、これをしまっておいて」と命じられました。小生一寸びっくり致しました。女中さんも始めはあつげにとられて鹿野先生のお顔を眺めておりましたが、「私は亭主を持ったことがないんで、背広の掛け方も知らないんですよ」と云いながら、それでも丁寧に洋服ダンスの中に納めてくださいました。「僕は自分でしまったことがないから………」と

真顔で云われたところは、恐らく本当だったのでしょう。「人使いが荒いかな」と少し照れておいでになりました。それにしても育ちの良さとお申しますか、うらやましいと申しますか、小生などは自分の着物は勿論、たまには自分の靴だって自分で磨いているのであります。

5時半から「お碗と玉」の講習がはじまり、7時半まであって、それから控えの間で、夕食をとりながらの宴会、これが前述のように、華やいだ雰囲気にお酒の勢いもありまして、遂に座は混乱状態になり、予定の9時から1時間の講習どころではなくなってしまったのであります。仕方なく、講習は翌日の分を1時間延長して埋め合わせることに決し、大いに愉快地騒ぐことになってしまいました。宴酌の頃、電話のベルが鳴り、奇術部員の矢ヶ崎先生からで、近くの旅館、花月に瑞穂医師会に来ているので、よかったら遊びに来てくれとのことでした。皆さんにご相談しましたところ、誰も行きてがなく、仕方なく「あとは引き受けました」との中村先生の心強い言葉をあとに小生1人代表で出掛けました。ホテル前のタクシーに行き先を告げると「旦那、すぐそこで、歩いて行きますよ」と教えてくれました。歩いて1分位の所なのです。玄関に着いて尋ねますと、ちょうど2人のジングルが帰るためにタクシーを待っていて、そのうちの若い妓が「こっちですよ」と途中まで一緒に来てくれました。ちょっと可愛らしい妓で、そのまゝ連れて入って、ついでに1時間座敷をつけてやればよかったと後悔しました。

それというのは、瑞穂医師会のジングルも婆さんと、今にも自殺しそうな蒼白い妓の2人だけで、先生方はそれを肴に、秋の夜を静かに酒をくみ交しておいでになりました。矢ヶ崎先生の他に内野・栗原・小林・波田野の先生方で、高水会長と大嶽先生はアンマをとってすでにおやすみになった由、小生簡単な手品をごらんに入れたり、つまらない議論をしたりして、大変お邪魔をして失礼しましたが、矢ヶ崎先生が送ろうと云って、我々のホテルまで来ていただきました。そこでもう既に寝ておられる先生方の枕元を通して、一人一人出席者を御紹介申し上げました。酔った勢いとはいえ、寝て居られた先生方には大変ご迷惑だったこととお詫び致します。それから今度は矢ヶ崎先生を宿までお送りして戻って参りますと、鹿野先生

とバツタリ廊下でお会いしました。煙草が欲しく宴会場はないかと探しに出て来られた由、早速小生も探すべく宴会場に入りますと、昨夜のまゝの状態、吸いかけの煙草をやっと探して、その上残った酒を集めて2人で3次会をやりました。酒もなくなった頃宴会場を出ますと、今度は川崎先生の旅立ち姿に出遭いました。もう午前4時なのであります。今度は川崎先生をお送りする番でございます。

外に出て先生の車のフロントガラスの霜を拭いて、「元気で行ってらっしゃい」と手を振りました。それにしても川崎先生のタフさには今更乍ら驚き入った次第、恐らく2、3時間しか寝られなかったと思いますが、次のゴルフ会場に愛車を駆って午前4時出発されたのであります。

それから小生も4時間程寝まして、8時半朝食、9時から2時間ミッチリと昨夜のおくれをとりもどすべく特訓がありまして、11時それぞれ帰路についたのであります。成果の程は分りませんが、実に愉快的な奇術特訓旅行でありました。以上簡単乍ら御報告申しあげる次第でございます。

小児科外来にみられる母親様々

道 又 正 達

- 電話を何回もかけながら、姿は見せず終い。
- 熱が出た出たと、昼夜問わず電話、二三日は発熱すると説明済みだが。
- 患児のお話は少して、自分が看病に疲れ果てたと微に入り細に入り切々と訴える。 頓珍漢
- 経過観察も結構ながら、受診時には毎度重症
- 病気の心配より財布片手に「足りるかしら」「今月も旨いおかずがありつけない」と窓口の声
- 他所の先生の悪口を云う「要注意人物」
- 他所のかかりつけの先生不在の時だけ「寸借受診」家内に文句云われて最近見えず。
- 待合室の週刊誌、女性特有の談合に夢中で、呼べど応答なし。このでの親に連れられてくる子供は他の子供の持物をとったり、泣かせたりで。
- お上品に振る舞う心算か、普段と違う声を出す。
- 一般的に最近眼玉グルリの狸様青眼玉の多い事
- 半月以上も前に一回だけ受診なのに、少しも治らないと文句を云う。

- 薬を飲まないと云う。以前は母親として何とか飲ませなさい。母親失格ですよ。と云ったが、最近では医者に来れば薬が出るから飲まないもの出してもし方がないから、次からは何処かの神様にでもお願いして下さいと云う事になっている。
 - 不況の反映か、以前投薬のものを適宜一家中で使用する、妥当な薬ならよいが。四十代のおばさんが、バリオメールを尻に入れたとか……
 - 子供の様子がどうであれ、旦那帰宅して車でないと動き出さない腰の重い肥満体年増
 - 子供を連れてくるのは、いつもお父さんだから様子がわからない。当方より母親へ電話する。
 - 共稼ぎで、育児全般「おばあちゃん任せ」子供診察中自分は待合室で煙草スパスパ、そうかと思うと矢張り共稼ぎで、自分は待合室で、夫に子供を連れさせ診察室へと云う御仁もあり。
 - 診察券を一枚出しておいて中に入ってからお父さんもお母さんも兄ちゃんもと云い出す類
 - 家庭医学書かなんかで勉強して、患児に就いて専門的とも思える医学用語まで駆使して丸で医局員同志向かい合った「フンイキ」でも何か変だね。余り執拗になった場合、失礼ですが、あなたどちらの医大卒業…と聞いてみる。
- 以上多少身勝手と思える人達だが、我が愛する患者の一員なり。

む す び

Nさんと云うお母さん適当に美人で身綺麗にしている子供達も可愛い。軽症で受診してもその都度治癒すると必ず電話で「おかげさまで元気で幼稚園に行きました。有難うございました。又宜敷くお願いします。」と忘れずにレポートがある。医師冥利がこれだと思う。娘二人が、Nさんの様な母親に育つ様に願いつつ筆を置きます。

不思議な話

甲斐武比吉

今を去る、38年前、台湾混成旅団基幹(長・陸軍少将飯田祥二郎)の海南島攻略部隊が、帝国海軍第5艦隊護衛の下に、奇襲上陸に成功したのは、昭和14年2月10日未明の事であった。

私の所属する台湾歩兵第2聯隊第2大隊は、2月9日深夜、同島西北、澄邁湾の泊地に進入した輸送船より発動艇に移乗、2月10日午前3時、暗闇をついて、敵岸に達着、秀英砲台を抜いて、同日午後、主都海口市に突入した。

しばらく海口附近を警備していた吾が大隊は、同島東北岸にそぐ萬全川上流に在る、嘉積市攻略の命を受けて、同地を出撃、炎天下の下を随所に敵の抵抗を破砕して、一路東南進した。

この間、露営の草枕で仰ぐ南十字星の神秘的な輝き、湿地でもないのに山ヒルの襲来に安眠をさまたげられた事、炎天下、水筒のかれ切った湯を椰子の果汁でうるおした時のうまさは、泰平の世のサイダー・ジュースの比ではなかった事など、忘れ得ない思い出である。

嘉積を占領した大隊は、無人と化した市街に数ヶ月駐屯して、附近の警備討伐戦に従事していた。昭和14年4月頃の或る日。台湾の留守宅から便りがあった。其の中に一家揃って「コックリ」さんで占った処、少佐になって、昭和20年に軍医をやめて、東京で開業する。と出た旨、伝えて来た。

当時我が軍は支那全土に於て、連戦連勝の絶頂期であり、敗戦などは思いも及ばなかった。

命永らえば停年迄陸軍つとめをするつもりだったし、中尉に進級して1年位の頃でもあり。昭和13年から少尉より中尉への進級が異例に短縮されたとは云え、それ迄は、少尉3年、中尉6年、大尉13年、が相場だったので。そんなに早く少佐になれるとも思わなかった。

また、支那事変が早期解決、動員解除、軍備縮少、クビ、となっても。

東京には親類縁者知己はなかったし、出生の地台湾を離れる考えなど毛頭なかった。開業するにしても、台平市内で、あとつぎのない伯父が医院を開いていたので、そのあとでもつづ事になるうと思っていたから。

コックリさんとは夢想だに出来ない事を、告げるものだと、一笑に付して居た。

時は移り、世は変わり、何の縁も、ゆかりも無かった、青梅市に移り住んでから、早28年を経た今日、往事を思い起こし、「少佐、昭和20年、東京、開業」と、コックリさんのお告げの的中した事に、おどろいて居る。

通 勤

松 山 大 秀

今年の2月から、荻窪の自宅から、五日市の伊奈にある診療所まで、片道約40kmの道のりを、ほとんど、毎日車で往復している。他人のほとんどは、「それは大変だ」と同情してくれるが、負け惜しみでなく、本人はそれほど苦痛を感じない。自分では趣味とまでいかぬが、車が好きなのだろう。

42年にライセンスを取ってから現在まで4度車を取り代えてきた。現在はロータリーエンジンのオートマチック車に乗っている。逆コースであるせいか、渋滞個使も少なく、片道約1時間半の孤独を楽しめる。往路は、主に、青梅街道から新青梅街道を使うが、四季の変化に乏しく、車の流れはよいが、趣のない道程である。

帰路は五日市街道を通る事が多いが、玉川上水に沿っていて、古くからの橋の名前の交叉点標識があったり、沿道には、わずかではあるが、土蔵のある農家などがあったりして、疲労した神経のストレス解消になる。

約一年間車で通勤しているうちに、前後左右の車のDriverの性質だとか、年齢・性別、女性なら若い美人か、オバサンかなどということが、実際に見なくても、おおよそわかる様になった。左寄り車線を、車間距離を必要以上にあけて、ゆっくり走るのは、年配の男子か、若い美人に多い。セカセカと車線を変え、前に割り込んで来るのは、中年の紳士に多い様だ。時には、スピード狂だと思って、多分若者だと思うと、意外にも、太ったオバサンであるのに驚いたこともある。

日本人特有のセッカチは、中年に多いのかも知れない。私は、急ぐ時は、中型のトラックか、44ナンバーの営業者に追従する事にしている。彼等はソツのない、要領の良い運転をする者が多いようだ。

先年、フランスへ行って来たが、日本の車の方がずっと立派である。フランス車は、ほとんど、小型で、うす汚れていて、バンパー等は傷だらけのものが多かった。フランス人の合理主義のせいかも知れぬが、車は、走りさえすればよいという考えが、日本人より強い様だ。たゞうらやましか

ったのは、幹線道路でも、高速道路でも、沿道には並木が整然と植わり、日本のそれと違って殺ばつでなく、絵になる道路が多い事である。地勢的条件等の違いはあるだろうけれど、我が国のお役人に、もう少し絵心や、詩的感覚をもってもらって、道路行政をしてもらえれば、もっと事故が減るのではないかと、その時、ふっと心をかすめたものである。

野口英世先生の知られざる逸話

(御誕生満百年に当り)

江 口 二 三 男

この文は、故秦(はた)佐八郎先生から御聞きした話である。秦先生は御存知の如く、「エールリッヒ・ハタ」の名で、有名な「サルバルサン(606号)」の研究発見者であった。

秦先生は私が学校時代、グループ10名の補導先生であった。我々が先生の家遊びに行った時、次の様な話をなされた。

「野口の奴がネェ、夜中にいきなり俺の下宿に飛び込んで来やがった。それもフンドシー巻でネェ、手にプレバラート一枚をおさえて差し上げて、有った、有ったと叫んでいる。それも無我夢中なんだ。」「お前、夜中だから良いが、何だか知らぬけれど、一体良くまあ巡査につかまらなかつたナァ」「訳は、当時野口は下宿の風呂場を借りて、毎晩何千枚かのプレバラートを鏡見していた。脳に梅毒スピロヘータは居ないと言うのが、世界の定評であった様だが、遂に野口は、そのスピロヘータを鏡下の脳細胞切片から発見したんだ。大した奴だよ。」私はその話に実に深い感動を受けた。

(昭和51年11月12日)

ヨーロッパ・中国旅行写真展

大河原 周 ・ 加藤 出

昭和52年1月9日(月) — 15日(土)

10:00 a.m. — 5:00 p.m.

西多摩医師会講堂

川合玉堂先生のことも

大河原 周

本年6月号からこの会報の表紙に、青梅市に在住された川合玉堂先生の絵画の写真を掲載している。これらは福田佐先生所蔵の作品を原田事務長に撮影してもらったものと、瀬戸岡先生と私の所有のものを加えたものである。

川合玉堂先生がなくなられてから、既に今年で20回忌を迎えることになって、年月の経過の速さに今更ながら驚くと共に、新しい会員には玉堂先生のことをご存じでない方も多いと思われるので、私の知っている範囲での先生の人柄・作風等について解説を兼ねて記述してみたいと思う。

川合玉堂先生は本名芳三郎、明治6年愛知県に生まれ、14才で日本画家を志して、京都に出て望月玉泉の門に学び、23才の時上京、日本美術院の創設と共に加わり、以後数々の名作を発表された。大正元年文展審査員、同4年東京美術学校教授、8年帝国美術院会員となり、昭和15年文化勲章を受賞された。

昭和19年戦局の激化と共に、牛込矢来町から青梅市御岳に疎開、次いで奥多摩町白丸に転じ、20年都内の住宅戦災にあい焼失、御岳の福田先生の住宅に移った。昭和30年名誉都民、青梅名誉市民に推薦され、以後奥多摩の自然が気に入られ、昭和32年84才で逝去される迄同地に居住された。

福田佐先生のお住まいは国鉄御岳駅の西約300米の青梅街道に沿って、北側の少し高い所にあるが、これは先代の先生の頃新しく建てられたものとみられる。

玉堂先生の住んでいられたのは、その北側の国鉄の上にかゝった橋を渡って、左側に曲った所にあった。福田家の先祖代々名主として使われた旧居であった。庄屋風の古いどっしりした構えの建物で、長屋門を経て母屋に入ると土間で、その左側に日本間が重なっており、手前の座敷に大きな日本机を置いて来客の応接間として使用されていた。

土間の奥はよくわからないが、多分右側が台所と内弟子の宇佐美江中さんとお手伝いさんの部屋、左側の奥の幾つかの居間が先生と奥様の居間とし

て使用されていたものと思われる。

玉堂先生の画室は応接間とそれと並んだ日本間の西側に離れとして新築された明るいガラス張りの日本間で、画室内の配置は現在の玉堂美術館にそのままの形で再現されているが、冬はそこにまきストーブが置いてあった。

応接間に使われた2つの日本間と画室の南側には、あまり広くはないが、竹やくぬぎ等の植わった雑木林の庭園があった。その土塀を通して御岳の山の杉林のそろった木立が借景として見渡され、実に見事な眺めであった。

母屋の入口には「午前不在」と云う掲示が出され、先生は午前中は画室で画架に向かって腰かけて絵をかいておられた。画室にはあまり人を通さないが、何時か画室で先生の絵をかかれるところを拝見したことがあった。

展覧会に出品される様な絵は下画もかいて時間をかけるが、大部分の画は1～2日でかき上げられる。晩年は殆ど横長の絵が多いが、画架に向かって腰かけて、日本紙に初めカーボンで簡単な構図をかかれ、次いで筆をとって墨で輪廓をかかれる。その後は色絵具と墨でかき込んで、見ている前でかなりのスピードで鮮やかな色彩の絵が完成されてゆく。

日本画家はその都度写生されるわけではなく、先生の若い頃からの多数のスケッチブックが美術館に展示されているが、それらの記憶が基礎となり、表現されて見事な絵が書き上げられてゆくのである。

絵につかれたりすると裏山を散歩されたり、時にはスケッチブックを携帯されて写生に出られることもあった。

午後になると都内から名士や画商の多数来訪があり、又近辺の人達もよく先生をお訪ねした。

先生はそれらの多数の来訪者にもいやがらず、喜んで会っておられた。来訪者の目的は絵の依頼が多く、少し訪問者との面会を制限される様に申し上げたこともあった。

そうしたことの連絡や、関係のある事務的なこと、先生ご夫妻の身辺のお世話は既に一家をなし

て青梅市に居住される、内弟子の宇佐美江中さんの献身的な努力によることを忘れることはできない。

先生にお会いした人は自然にして円満な人柄と人をそらさない魅力にとりつかれる。渋い色の着物にかかるさん(たっつけとも云う)をはかれた銀髪の風貌は仙人の様であるが、いつもお元気で話も活発によくしゃべられた。

私達つまらない質問にも丁寧に答えられ、日本画はもとより各地の風物・食べ物等について知識は深く、その人物評も鋭い。

玉堂先生の画風については、玉堂美術館の案内によれば、「伝統的な日本画の本質を守り、気品のある独自の作風」と規定されている。

先生の絵が一般の人達に好まれるのは、現在の装飾的な日本画の多い中で、絵そのものが誰にでもわかり易く、簡単明解に直接私達に訴えてくるからである。そこに描かれているのは私達の周囲に何時も見なれている日本の農山村の風物であり、それは私達日本人の心に引き続ききた故郷(ふるさと)の姿である。特に一般には枯れた筆致の晩年の作品が好まれている。

又先生の書も珍重され、その潤達な筆致は先生の人柄を反映している。

その他和歌・俳句・民謡等の数も多く、現在でもよく宴席で歌われている御岳仙歌(そまうた)は先生の作詞に古関裕而の作曲になるものである。

玉堂先生の死後お住まいを記念館として保存したいとの希望もあったが、昭和36年地元有志の寄附と都の補助を得て、御岳河畔に玉堂美術館が完成した。これは芸大教授故吉田五十八氏の設計による日本風の建物であり、現在は玉堂記念会によって運営されている。

先生のご子息は長男真一氏は芸大教授、次男川合修二氏は現在近くの軍畑に居住され、陶芸家として名を成していられる。

又先生の日常の製作活動を記録したのもとして、昭和28年ブリッジストーン美術館製作の映画「川合玉堂」がある。

第6回学術部研究会 (51.11.11)

講師 順天大助教授 岡田了三先生

演題 心弁膜症について

要旨;成人の場合の弁膜症はリウマチ性のものが大半を占める。主として僧帽弁・大動脈弁である。又、梅毒性のものも見られる。

60才以上の老人にも時々心雑音がきかれる。この心雑音は弁膜及び周囲組織・腱索・乳頭筋等の老化になる変性・萎縮・硬化・石灰沈着等の変化が原因となっている。僧帽弁・大動脈弁が主におかされる。(鈴木)

理事会報告 (51.11.24)

地区医師会長協議会報告(会長)

1. 学術講演会の開催について
2. 12月1月分社保・国保レセプト提出日について 例年通り、12月は6日、1月は8日
3. レセプト等の記載要領等に関する疑義回答について
4. 医薬品再評価終了した医薬品の取扱について
5. 休日・夜間診療問題について

11月24日に担当理事を集め説明があった。(官川)準夜(pm 7'~10')と深夜(pm 10')に分け、準夜は地域毎に輪番制で行い、報酬は自治体よりとし、深夜は総て救急扱いとし、都で心配しようと言う事になり、来年1月から3月迄の予算を5千万円とった。之を割り当てると都内は一次救急18ヶ所、二次救急3ヶ所、三多摩は一次救急2ヶ所、二次救急1ヶ所となる。確保病床は、一次2床、二次4床で、報酬は1ヶ所(医師1、看護婦2、事務員1、技術者1)で8万円位となる。

6. 日本内科医会について 都医としては反対で、詳しい説明はなかった。
7. 病院に於ける輸血状況調査について 毎年実施のもので協力されたい。
8. 第23回学校保健大会 11月30日
9. その他

理事会協議事項

- 三多摩医師懇談会(11.13)

会長・両副会長、宮川・福島理事出席
同日武蔵野市医師会の30周年記念の会があり、
福島理事が代表出席した。

- 各委員会の責任者が決まった。
定款研究委員会(川崎) 事故対策委員会(松原)
地域対策委員会(中林) 税務対策委員会(百瀬)
其の他会館環境整備委員会は25日、学校医委員
会は30日に決まる。
- 多摩庶務担当連絡会が行われた。(福島)
予防接種について、来年度学校医手当、予防注
射手当について、職員期末手当等について検討
された。
- 菱山監事が福生病院に入院されたので、慣例に
より役員より見舞金を贈りたい。
- 社保一本化後の整備について(西村)
請求方法について若干の間違いあり。編てつ方
法で(国)が社保では下になるが、国保では従来
通り上になる。
箱崎理事が健康上の理由で役職を休まれている
間、国保整備会の責任者を誰か代りになって貰
いたい。
会長指示で瀬戸岡副会長が代行となる。
- 新年会について(川崎)
1日22日(土) 青梅の高砂大飯店でpm 6~9
迄、1月14日(金)とも考えたが、結局22日
に決まる。 会費1医療機関3,000円
- 学校医手当の件(会長)
予防接種手当は13,000円から15,000円にアッ
プ、学校医手当も15%位アップしたい。之も全
般に上げるか、管理職手当のみあげるか、専門
医手当は1人で何校も兼任が多いから、との考
えがある事も述べられたが、之には反対の意見
も出て双方をば考えてあげる様に会長に一任。
- 入会者紹介(勤務医) 承認
- 多摩医学会(11月27日 土)
- 忘年会について、会長協議会も議題なく、12月
の理事会は忘年会としたい。
12月22日(水) 於 福生熱海
- 医師会に提出する診療報酬一覧表について、此
の際改定するか否か。
確定通知書の葉書が従来通りであるので、当分
の間現行通りとする。

理事会決定事項

1. 入会々員の承認
2. 来年度予防接種手当は15,000円
学校医手当は15%アップの線で会長一任
3. 新年会 1月22日(土) 青梅 高砂大飯店
4. 忘年会 12月22日(水) 福生 熱海
5. 菱山監事の御見舞の件
6. 国保整備委員会の責任者は瀬戸岡副会長が代
行する。 (速水 完一)

囲碁部特報

昭和51年11月23日、予て指導をいたゞいており
ます、日本棋院河合哲之五段主催の配下各社年1
回の対抗戦に、本年初めて当医師会から代表3名
が出場しました。その奮戦の模様を主将大蔵氏の
軽妙な筆致で下記の通りお伝えしていただきます。
(甲斐)

半目差に泣く

さる勤労感謝の日に市ヶ谷の日本棋院会館6階
「洗心の間」で各社対抗親善試合(河合会)があ
り、当医師会からも別表の3名が参加しました。
変則リーグ第1試合の相手は白山会(本郷)。
これは参加20チームのうち唯一の女性チームです
が、河合棋士の予告たがわず、なかなか油断のな
らない相手(試合後おたずねしたらオール3段の
由)。主将どうしの対戦はわが方が勝ち、副将戦
は甲斐先生に見損じがあつて負け。この試合のハ
イライトは三将戦。桂木先生が中盤までよかつた
碁を、作り終わったら盤面6目(何べん数えても)
コミを引いて半目負。

昼食時、こういう大会では緒戦の運不運がえて
して尾を引くなどの話が出る。

食後再開された第2試合に对三菱石油Aチーム
(虎の門)。今度はアンラッキーが主将戦に出て
当方の半目負。それが副・三将戦の士気に影響し
たか、枕を並べて討死。

第3試合の対四季会(笹塚)戦では甲斐先生が
終盤コウをイドんで鮮やかな勝を決め、桂木先生
はまたもコミがかりで涙をのむ。

この大会のメリットは、オール互先なので、棋

The "common complaints"

機能性
胃腸愁訴

《健保適用》

デプレッションにみられる各種症状

デプレッションに基づく
機能性愁訴の緩解に

トリプタノール[®]

(塩酸アミトリプチリン)

〔適応症〕

精神科領域におけるうつ病、
うつ状態。夜尿症。

〔包装〕

25mg/錠：100, 500, 1000錠

10mg/錠：20, 100, 500, 2000錠

用法・用量、副作用、禁忌、使用上の
注意などについては製品添付説明書を
ご参照ください。

性欲減退



不安



不眠



疲労



頭痛



ばく然とした
身体愁訴



製造
日本メルク萬有
販売
萬有製薬

3-74 TTN 71-RA-139J-JA 572